

## 1 学校教育目標

「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、高い志を持って地域社会に貢献する人材を育成する。」

校訓：自律・挑戦・感謝

- 自律＝基本的生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。
- 挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。
- 感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。

自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。

## 2 本年度の重点目標

## 『個性を伸ばす学校づくり』

- ①自律精神の育成 : 挨拶、部活動及び校外活動(社会性)、基本的生活習慣の確立
- ②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、読み書きの力強化
- ③指導力の向上 : 青翔式アクティブラーニング、e-learningによる職員研修、教育相談(不登校、発達障害対応)の充実、ICTの利活用、メンター制度、資格取得の推進
- ④進路指導 : 3年間を見通し、目的を持たせる進路指導、各種講演会、校外見学会、学びの基礎診断によるPDCAサイクルの展開
- ⑤キャリア教育の推進 : 1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」  
3年・・・「課題研究」
- ⑥地域連携 : (総合学科の系列を生かした連携活動)  
地域の良さを伝える商品開発・販売実習、玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、韓国との交流、生活福祉系列の介護実習、環境保護のための活動  
(生徒会活動)  
玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品
- ⑦広報活動 : 青翔ニュースの、町及び中学校への配布、HPやフェイスブックの充実
- ⑧いじめの未然防止と早期対応 : SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等

### 3 目標・評価

#### ①自律精神の育成 : 挨拶、部活動及び校外活動(社会性)、基本的生活習慣の確立

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○環境整備	・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。	・生活環境における生徒の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境となるよう整備する。	・さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係が中心となり日々の掃除の充実や掃除用具の管理に取り組む。
	●心の教育	・個性を大切にしたい思いやりのある心の育成ができたか。	・クラス担任や学年との情報の共有、保護者・SC・専門機関との連携など協力体制を密にする。 ・HR活動等とおして、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。	・生徒理解と情報共有のための職員研修や前・後期各1回の教育相談フォーラムを開く。また、SCの助言を得ながら必要に応じて関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのLHRを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。
	○生徒指導	・対話・会話を重視した生徒指導を実施し、落ち着いた雰囲気中学校生活を送ることができたか。	・だれもが安全に安心して過ごせる学校作り。 ・かわいがられる人財を育てる。	・服装・頭髪指導及び遅刻欠席者への指導を教務部や進路部と連携して段階的指導を行う。 ・毎朝、数名の職員で校門に立ち、挨拶を通して生徒の安全確保と様子を把握する。 ・生徒の様子や変化を見逃さない為に、SHRや昼休みの巡回等に複数的人数で対応する。
	○読書指導	・個性を伸ばすために、本に親しむ生徒を育成することができたか。	・図書館の良さを伝える。 ・青翔タイムで読書に取り組み、読書体験を積む。 ・学校図書館の貸出冊数を、1人平均6.0冊以上にする。	・1年生のオリエンテーションで図書館の良さを伝える。 ・図書委員の活動を活性化し、読書に対する広報活動を行う。 ・お薦めコーナーを定期的に更新し新しい本との出会いをつくる。
	○基本的生活態度(礼儀・マナー)の育成	・挨拶や敬語を意識した言葉遣いを心がけさせることができたか。	・生徒会、部活動の生徒を中心に積極的に行動し、大きな声で挨拶ができる生徒を増やす。 ・将来を見据えて直さなければいけないところを変えることができるように意識させる。また、自分たちの良さを伸ばせるように積極的に行動させる。	・生徒会、部活動の生徒を中心に行事等の準備、後片付けを積極的に行わせる。また、HR委員へ協力を依頼し、朝の挨拶運動を行う。 ・正しい言葉遣いを意識させ、進路指導部と連携を取り、進路決定に繋げる。また、行事等で生徒自らコミュニケーションを取り、積極的に行動させる。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食をとっている生徒の割合を80%以上にする。	・保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。

#### ②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、読み書きの力強化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力は定着したか。(青翔タイム、週末課題、少人数指導、成績不振者に対する長期休業中の指導)	・青翔タイムの活用により基礎学力特に語彙力強化を図る。 ・調査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席の数を昨年度より30%減にする。	・青翔タイムに全職員で取り組み、個々に応じた追指導を行う。 ・調査や模試の結果を迅速に処理し、個人成績票の配布を行う。 ・遅刻者数を減らすために、生徒指導部と連携し、生徒面談、保護者面談等を行う。
	○少人数学級編成	・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。	・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようになる。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。	・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・複数の学年での少人数学級編成や、授業におけるTTでの指導の機会を拡大させる。 ・産業社会と人間の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。
学校経営	○学校経営方針	・重点目標は達成できたか。	・各分掌、担任団等で、関連する重点目標を確認し、それらの項目において満足のいく結果が得られる職員の割合を80%以上にする。	・分掌や担任団の主任は重点項目を考慮した活動や行事の策定を行うよう、運営委員会で確認し、目標達成への喚起をする。

**③指導力の向上** : 青翔式アクティブラーニング、e-learningによる職員研修、教育相談(不登校、発達障害対応)の充実、ICTの利活用、メンター制度、資格取得の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学 校 運 営	○職員の 資質向上	・教科指導力が向上したか。 (校内公開授業、校内外の研修)	・学習用PC、電子黒板を含めたICT利活用能力をより高める。 ・いつでも、どこでも、誰でも授業をお互いに見せ合う環境を職員間でつくる。 ・初任研、3年経過研、中堅教員研修を校内研修と連動させ、それぞれの教員が経験年数に応じて切磋琢磨できる環境にしていく。 ・各種の研修会を年2回以上受講する教員の割合を90%以上にする。	・経年研修には必ずICT利活用教育を絡めた授業研究会にして、校内授業研修が有機的に展開できるよう計画する。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう会議での報告や、日報を活用した研修結果の報告をしていく。 ・青翔式アクティブラーニングの取り組みを具体化する。 ・e-learningを活用した職員研修を完全実施する。
	○業務の改革	・校務の効率化に努めたか。	・特に、「系列」の授業計画や事業の策定、実行において、役割分担を明確にし、効率よく実践展開できるよう工夫していく。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	・前年踏襲だけではなく、常に工夫と改善に心がける。 ・明確な分担配置、行程の明示に心がけ、運営委員会等で簡素化、効率化に取り組んだ部分を説明し周知を図る。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT利活用能力は向上したか。 (電子黒板、学習者用PC)	・電子黒板、学習用PCを利用した授業を実施できる教員を100%にする。 ・学習用パソコンを利用した効果的な授業を展開していく。	・校内の研修を充実させていく。 ・朝自習や授業中での利用などを通して、学習用パソコンを利用する機会を増やしていく。

**④進路指導** : 3年間を見通し、目的を持たせる進路指導、各種講演会、校外見学会、学びの基礎診断によるPDCAサイクルの展開

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教 育 活 動	●志を高める 教育	・社会での有用感を生徒に醸成することができたか	・特に地元地域で社会貢献できる人材の育成を目標として、授業や行事を展開していく。	各授業や行事、実習等で振り返りの時間や自己反省の時間を作り、社会参加の意識や社会での有用感をその都度喚起できるよう工夫する。
	○進路指導	・進路希望を達成させることができたか。	・生徒が希望する進路を実現するため、また、早期退学や離職を予防するために、キャリア教育等を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・進学および就職達成率100%を目指す。	・生徒の進路希望や進路に関する適性について、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・各種学校や企業等の関係強化のために、学校や企業訪問を実施する。 ・進路ガイダンス、進路講話などで進路意識を高める。

**⑤キャリア教育の推進** : カリキュラムの中に『総合学科の理念』を実現  
1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」、3年・・・「課題研究」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教 育 活 動	○キャリア 教育	・キャリア教育が充実したか。	・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や郷土学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。

**⑥地域連携**：（総合学科の系列を生かした連携活動）  
 地域の良さを伝える商品開発・販売実習、玄海町からの制作依頼（美術系）、  
 名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、  
 韓国との交流、生活福祉系列の介護実習、環境保護のための活動  
 （生徒会活動）  
 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等での  
 ボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○系列	・科目群の授業において地域と連携した授業、活動が行なえたか。 (重点目標参照)	・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。	・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っていく。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」、各系列の授業において地域や企業等との連携を行う。
	○生徒会活動	・地域行事への参加と協力が行えたか。	・玄海町民会議での意見発表、福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深める。 ・販売実習などの系列の授業との連携した活動の機会を増やす。	・生徒会の生徒を中心にボランティア部と連携し、積極的に地域の行事等に参加する。 ・系列の販売実習や地域との交流などと連携を図り、地域の良さを伝えていく。

**⑦広報活動**：青翔ニュースの、町及び中学校への配布、HPやフェイスブックの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	・広報活動を充実させることができたか。(公開授業、情報発信)	・学校HPの定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・保護者の公開授業などの学校行事への参加数を、昨年度よりも増やす。	・本校の特色を効果的に伝えるために、発信する内容、時期を工夫する。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。 ・各種行事への参加者数を増やすために、事前の情報発信を行う。

**⑧いじめの未然防止と早期対応**：SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。	・学校生活アンケートを定期的実施しいじめの早期発見につなげる。 ・問題行動発生時には、実態調査や学年集会・全校集会を実施する等の対策を迅速に行う。

**○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・組織的に合理的な校務運営に努め、教職員の業務量の平準化を目指し、健全な心身の維持は図れたか。	・学校行事を精選し、役割分担を明確にすることで、教職員の業務負担の軽減に努めるとともに、年休消化率60%以上を目指す。 ・業務記録票による自発的勤務時間が月100時間を超える教職員数の数をできる限り減らす。	・定時退勤日の実践や校内立入禁止日の設定により日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務効率を向上させる。 ・業務記録票により自発的勤務時間を把握し、長時間勤務の教職員に対しては産業医との面談を積極的に推奨し、ケアに努める。
	○学校事務	・施設設備の維持管理に努めることができたか。	・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見、早期対応に努める。	・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応に努める。

●は共通評価科目、○は独自評価科目